

テンプス



TEMPUS

2022年(令和4年) **78** 号



根福寺城跡周辺＜国土地理院航空写真（1975年撮影）＞に縄張り図を重ねたもの

※点線枠内が概ね城跡の範囲

も く じ

根福寺城跡（こんぷくじじょうあと）の調査 その2

孝恩寺の仏像 菩薩（ぼさつ）⑧ 十一面観音菩薩（伝勢至（でんせいし）菩薩）
／ 貝塚市郷土資料展示室企画展「写真で見る孝恩寺の文化財」

孝恩寺 文化財収蔵庫 特別公開のお知らせ

東京2020オリンピック聖火リレーの関連資料－貝塚市歴史展示館の展示資料から⑦－
／ 大北（おおきた）太鼓台の龍の彫物－貝塚市郷土資料展示室の展示資料から－

古文書講座－市内に残る身近な古文書－ 「永寿池の普請と水論」
／ 小学校巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」

文化財講座・セミナー・展示

／ ナラ枯れ被害の拡大防止のためトラップを設置

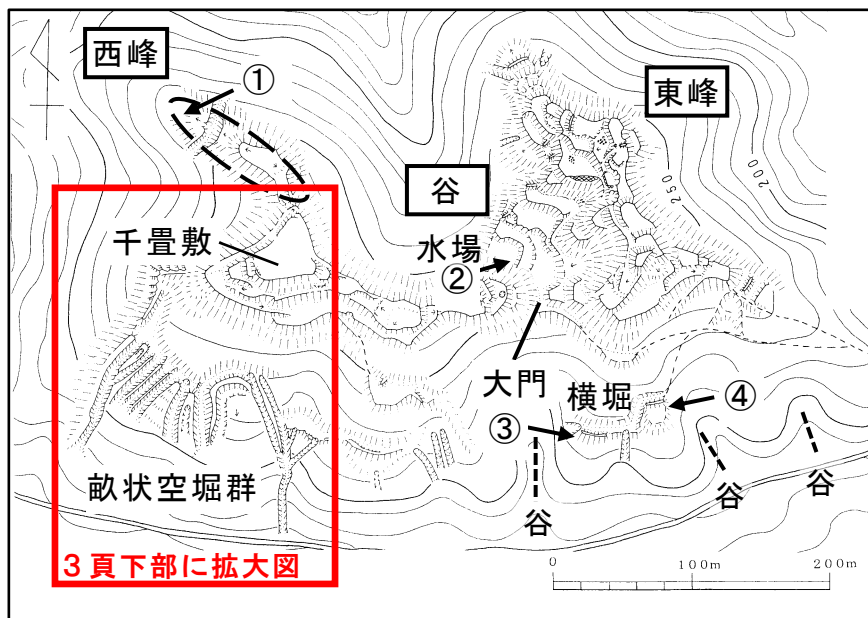
根福寺城跡(こんぷくじじょうあと)の調査 その2

根福寺城は、大川と秬谷（きびたに）の集落の北にある山城です。水間村の庄屋井手家に残る古文書によると、天文4（1535）年に和泉国守護代の松浦肥前守守（まつらひぜんのかみまもる）が築城し、当初は「野田山城」と呼ばれていたことがわかります。昨年度から城跡を歩いて状況を調べる踏査を行っています【本誌74号で紹介】。

今回の調査は、令和4年3月14日から17日にかけて行いました。研究者の作成した縄張り図をもとに昨年の調査で確認できなかった場所まで範囲を広げて城跡全体を対象としました。

※城跡は、私有地のため立ち入ることはできませんのでご注意ください。

根福寺城跡縄張り図
（『貝塚市基本調査報告書』
より転載、一部加筆）



西峰の北尾根の先端部

西峰の千畳敷（せんじょうじき）と呼ばれる平坦な部分から北西方向に続く尾根があり、尾根筋の侵入を防ぐために堀切（ほりきり）が造られていることが確認できました。

千畳敷から尾根の高低差は約30mあり、尾根は岩盤で両側は急斜面になっています（写真①）。

岸和田市の西福寺に残る「朽木集（くちきしゅう）」には、「のた（野田）山」城が築かれる以前には「仙人かたけ（ヶ岳）」と呼ばれたと記されています。その名前や変化に富んだ地形から、山に籠（こも）って厳しい修行を行うことで、悟りを求める修験道（しゅげんどう）の行場であった可能性があります。



①西峰の北尾根の先端部の様子

東・西峰の間の谷部分

大門があったとされる場所から北方向には、西峰と東峰の間に谷があり、平坦な部分が段々に北方向に連なり、約100mで急斜面となることが確認できました。

急斜面の手前に、砂利や石が露出した窪みがあり、現在水は湧き出ていませんが、かつては水場だったと考えられます（写真②）。

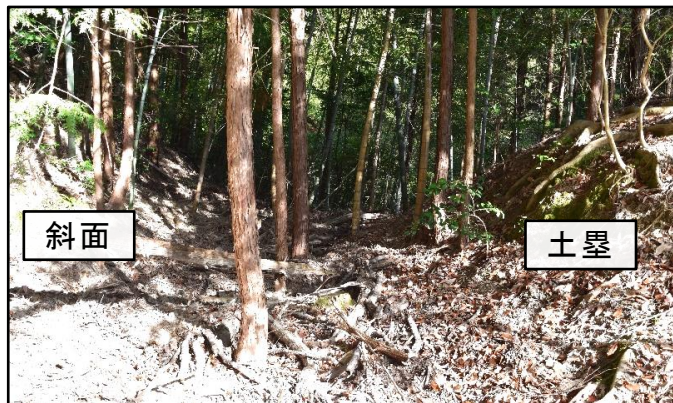


②確認された水場

土地所有者の話によると、この谷から東峰の麓（ふもと）にかけて昭和初期くらいまで人が住んでいたとのこと。今回確認した水場が、直接城郭に関係する遺構とまでは断言できませんが、この谷で水が確保できていたことは明らかとなりました。

東峰の南斜面

東峰の南斜面には、2ヶ所に横堀と土塁（どるい）が造られています。横堀は比較的ゆるやかな斜面を掘削して、その土を盛り上げて土塁が造られています。高さを変えて造られた2つの横堀は通路で結ばれており、ここに身を隠して登ってくる侵入者を迎え撃つことを想定して造られたものと考えられます。横堀の下の急斜面と、谷が何本もある地形をうまく利用して侵入を防ぐ構造であったことが確認できました。



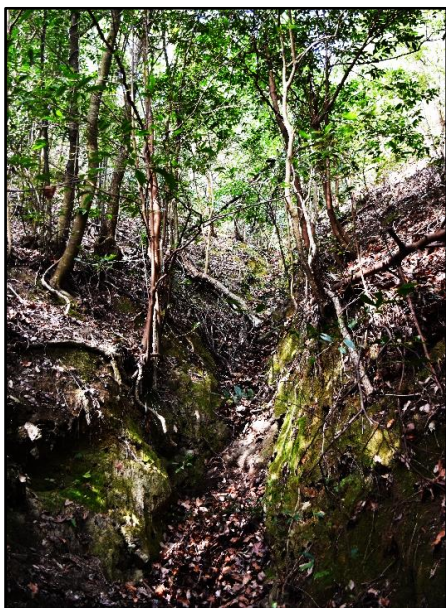
③東峰の南斜面の横堀（西から東を望む）



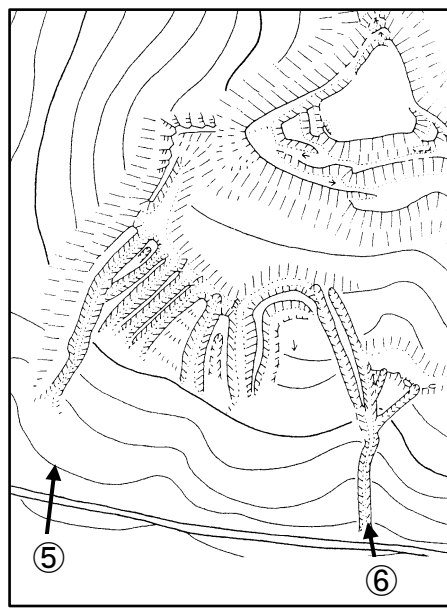
④東峰の南斜面の横堀（東から西を望む）

畝状空堀群（うねじょうからぼりぐん）

西峰の南斜面には、侵入者の横方向への移動を防ぐために造られた縦堀（たてぼり）が並ぶ畝状空堀群があります。東西約100mにわたって7本以上の縦堀が岩盤を掘削して造られています。昨年度の調査の際は上からの観察に留まりました。今回は堀を下り降りて調査しました。西端と東端の堀は、麓の道路付近までのびており、高低差は70m以上あります。降雨時には雨水が流れているようですが、普段は水の流れがない空堀です。堀の断面はV字形で急傾斜のため、壁面を登ることは困難であることが確認できました。



⑤西端の縦堀



縄張り図（西側部分拡大）



⑥東端の縦堀

今回の調査では、縄張り図と現地のようにすを比較しました。その結果、自然地形を利用した上で、さらに防御性を上げるよう手を加えた痕跡を確認できました。発掘による調査は山中という制約があり困難ですが、今後も詳細な調査を継続したいと考えています。

孝恩寺の仏像 菩薩⑧ 十一面観音菩薩 (伝勢至菩薩)

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の20軀（く）の仏像（彫刻）が安置され、うち19軀が国の重要文化財に指定されています。今回はその中から十一面観音立像（伝勢至菩薩）を紹介します。

【重要文化財】木造 十一面観音立像（伝勢至菩薩像） 1 軀

時代 平安時代前期（9世紀）

像高 167.5cm

指定年月日 昭和13（1938）年8月26日

観音菩薩は、33の姿を持ち、衆生（しゅじょう、生きとし生けるもの）のあらゆる願いにこたえてくれるといわれます。十一面観音はその変化した姿の一つで、頭上に10または11の小さな面（顔）をつけた観音菩薩です。

本像は、木造 阿弥陀如来坐像の脇侍（きょうじ）の勢至菩薩像として安置されていますが、頭上面に面を取り付ける穴があることから、本来は十一面観音であったことがわかります。頭頂部より足元まで、両臂（ひじ）を含めて一本の材木から彫り出しています。

対になる伝観音菩薩像【本誌63号で紹介】とほぼ同じ像高で、頭には派手な宝冠をつけ、手には同じ蓮茎（れんけい）を持ち、肉身は漆箔（しっぽく）仕上げ、衣部は黒漆（くろうるし）塗りとしていますので、一見すると両像は一組の像のように見えますが、形式および様式において相違点が目立ちます。天平（てんぴょう）風のプロポーションの良い伝観音菩薩像に比べて、本像は抑揚の少ない寸胴形のプロポーションで、両腕が異様に太く、臂部も飛び出し、誇張的な面が見られます。また衣の表現も形式化が見られ、背面の粗い処理とあわせて、伝観音菩薩像よりも製作時期が新しいことを感じさせます。伝観音菩薩像の洗練された作風と異なり、地方で製作された粗さと力強さをもつ像だといえます。



貝塚市郷土資料展示室企画展「写真で見る孝恩寺の文化財」

保存修理事業を終えた国宝「孝恩寺観音堂」（釘無堂）をはじめ、孝恩寺に残る文化財についてパネル展示で紹介します。

会 期 開催中～令和4年12月26日（月）まで

場 所 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

観覧料 無料

休室日 火曜日、11月23日（水）、30日（水）



国宝「孝恩寺観音堂」

孝恩寺 文化財収蔵庫 特別公開のお知らせ

孝恩寺では、本堂である国宝「孝恩寺観音堂」（釘無堂）の保存修理が終わり、令和4年9月23日（金）にはその修復を記念する落慶（らっけい）法要が執り行われ、約100年振りの保存修理を終えた観音堂が関係者に公開されました。今後の一般向けの公開については、毎年春と秋の「彼岸」の時期に2週間程度の期間を設けて特別公開として行われる予定となっています。

まずは令和5年3月から4月にかけて下記の内容で特別公開が行われます。ぜひこの機会に、観音堂と、文化財収蔵庫に安置されている重要文化財の仏像群等をご鑑賞ください。

公開日 令和5年3月19日（日）～4月1日（土）

※拝観は下記の時間帯別

- 拝観時間 ①午前10時～正午
②午後2時～4時
③午後5時～7時

（最終入場は午後6時）

※①の時間帯は一部学芸員などによる解説が行われます。

※③の時間帯は観音堂がライトアップされます（午後6時以降）。

場所 孝恩寺 〒597-0102 貝塚市木積798
※水間鉄道「水間観音」駅から徒歩約20分です。

定員 ①～③各回とも20数名

入場料 1名、1回につき1,000円

※小人および団体割引はありません。

申込

令和5年1月20日（金）以降、孝恩寺まで右記を参考にして往復はがきで拝観希望日時、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢を記入の上、お申し込みください（2月17日（金）必着）。なお、拝観希望日時は第3希望まで記入いただけます。また、申込が定員を超えた場合は抽選となり、当落を含めたご連絡は2月末までに返信用はがきでお送りします。

なお、団体（20名以上）での拝観希望の場合は、メールにて令和5年1月6日（金）午前10時から1月13日（金）午後5時までの間、先行して受付が行われます。

孝恩寺メールアドレス：ko-onji@iris.eonet.ne.jp

- ※1 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により休止する場合があります。
- ※2 入場料については、孝恩寺が所有する貴重な文化財を未来に伝えるため、その維持管理等に役立てるとともに、地域の活性化を図る事業に充てられます。



〒597 0102	
往信	孝 七 貝 恩 九 塚 寺 八 市 宛 木 積
この面は記入 しないでくだ さい	

郵便番号	
返信	氏 申 名 込 様 者 の 住 所
1. 拝観希望日時 （第3希望まで記 入いただけます）	
2. 住所	
3. 氏名（ふりがな）	
4. 電話番号	
5. 年齢	

東京2020オリンピック^{せい か}聖火リレーの関連資料

ー貝塚市歴史展示館の展示資料から⑦ー

大会での選手たちの活躍は皆さまの記憶にも新しいことと思いますが、令和3年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックから1年あまりが過ぎようとしています。

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）では、聖火リレーのトーチ【本誌76号で紹介】の他にも聖火リレーの関連資料を展示しています。

本市内での聖火リレーは、令和3年4月14日（水）、歴史展示館横の日本生命体育館をスタート地点とし、市役所本庁舎（ミニセレブレーション会場）前を通過、市立第一中学校運動場をゴール地点とする約3kmのルートを12区間に分けて開催される予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で大阪府内全域の公道でのリレーが中止されました。そして、大阪府での聖火リレーは、4月13日（火）・14日（水）、吹田市の万博記念公園内で行われ、本市からは市民ランナー3名が参加されました。

現在歴史展示館では、スタート地点・ミニセレブレーション会場・ゴール地点に設置される予定だったバックパネル、ランナーが着用した公式ユニフォーム、広報用に作成した水間鉄道のヘッドマーク（写真）、ポスター、のぼり、丸ウチワ等を展示しています。



水間鉄道のヘッドマーク

さまざまな資料をご覧くださいことで、まぼろしとなった貝塚市内の聖火リレーに思いをはせていただく機会となればと思っております。ぜひ歴史展示館へお越しください。

おおぎたい こだい りゅう ほりもの

大北太鼓台の龍の彫物ー貝塚市郷土資料展示室の展示資料からー

貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）では、市役所旧庁舎の閉鎖に伴い移管された市内北町の**大北太鼓台桝組（ますぐみ）彫物 龍**を展示しています。

太鼓台は、旧貝塚寺内町（じないまち）地域で開催される夏祭り「貝塚宮・太鼓台まつり」で各町から担ぎ出されるもので、ふとん太鼓とも呼ばれます。

展示している龍の彫物は、屋根下の桝組という部分の四隅を飾る16丁の龍のうち最上部の4丁一組です。平成元年の大修理の際に取り替えられ町会で保存されていたものですが、多くの人の目にふれることになればという思いから、平成3年、大北町会から市に寄贈していただきました。角が折れていたり手足がなくなっていたりしている部分はありますが、高松彦四郎（たかまつひこしろう）という大阪の彫物師の手で彫られた精巧な彫物で、ガラス製の目玉は彫物師の秘伝であるガラス目工法で作られています。



大北太鼓台桝組彫物 龍

図書館および郷土資料展示室へお越しの際には、ぜひご観覧ください。

古文書講座

ー市内に残る身近な古文書ー

◆永寿池の普請と水論

今回も引き続き新型コロナウイルス感染対策として、令和4年10月5日から11月2日までの水曜日と、10月7日から11月4日までの金曜日、の2グループに分けて定員30名・5週連続の開催として、「永寿池の普請と水論」と題し、古文書講座を開催しました。



講義に聞き入る受講者のみなさん

貝塚市の水がめである永寿池は、江戸時代には貝塚市内の半分近い田畑に水を供給し、今もなお広がる田畑にとって重要なため池です。①享保4(1719)年、熊取谷小谷村(くまとりだにおだにむら)の農民たちが近木庄の庄屋たちに宛てた、洪水から田畑を守る水の貯め方を依頼した口上書きと、②明和元(1764)年に作り直された水間から永寿池を結ぶ用水の途中、水間寺の滝を横切る掛越樋(かけこしひ=水道橋)の工事記録を読み解いていきました。①に関連して、小谷村など近木庄(こぎのしょう)以外の村人も、近木庄の土地を耕していましたが、彼らは永寿池における用水権が弱かったため、たびたび水争いが発生したこともわかりました。②に関連して、樋は洪水で壊されるたびに掛け替えが行われたことも確認されました。受講者の方からは「当時の農民たちが田地と水を大切にしていた様子がわかりました。」「近隣の永寿池に関係する内容で勉強になりました。」との感想が寄せられました。

小学校巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」

令和4年9月8日から11月24日にかけて、昨年度の「貝塚の古墳」に引き続き、今年度も市内11小学校で巡回展示「岩橋善兵衛の科学技術」を開催しています。

4年前に開催したテーマですが、江戸時代に貝塚で望遠鏡作りを始め、天文学の普及に努めた岩橋善兵衛の業績を改めて知ってもらう機会となりました。善兵衛の著書『平天儀図解(へいてんぎずかい)』と『平天儀』の複製品、天体観測に用いる望遠鏡「窺天鏡(きてんきょう)」の模型を展示しました。多くの児童が実物に近い展示物をのぞき込んでくれるなど、興味・関心の高さがうかがえる巡回展示となっています。



食い入るように展示を観る児童



文化財講座・セミナー・展示

令和4年

◆11月
(後半)

ブナ

23日(水・祝) 9:00~16:00
和泉葛城山ブナ林ハイキング

森町

23日(水・祝) 10:30~11:30
第124回かいづか歴史文化セミナー講演会
「木島の総社 稲荷神社の由緒と歴史」

◆12月

令和5年

◆1月

上記のセミナー等につきましては、11月広報
(11月4日(金)配布)で申込手続きを開始して
おりますので、すでに定員に達している場合がご
ざいます。その旨ご了承の上、ご参加を希望され
る方は下記までご連絡ください。

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※ **ブナ** : 和泉葛城山ブナ林 **森町** : 森町会館

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記
イベントは開催延期・変更・中止となる場合があり
ます。ご理解をお願い申し上げます。



郷土資料展示室

企画展「写真で見る
孝恩寺の文化財」

12月26日(月)まで
1月7日(土)から

「貝塚市の指定
文化財」展<第3期>

2月24日(金)まで

令和5(2023)年3月、和泉葛城山ブナ林は国の天然記念物指定100周年を迎えます。

ナラ枯れ被害の拡大防止のためトラップを設置

和泉葛城山ブナ林内では「ナラ枯れ」(昆虫が菌を媒介する
樹木の伝染病)被害が見られ、対策を実施しています【本誌75
号参照】。枯れた木の中で菌を媒介するカシノナガキクイムシ
が成長し、6月ごろから新成虫となって飛散することで被害が
広がります。トラップは、カシノナガキクイムシが明るい方向
に集まる習性を利用して、被害木を立木のまま黒いビニール
シートで覆い、地面に近い部分に窓を開け、明るいところに出
てきたカシノナガキクイムシをペットボトルの中に集めて捕獲
するしくみです。令和4年5月23日と25日の2日間に飛散防止
トラップを11本の枯れたコナラの木に関係者で設置しました。



トラップ設置の様子
(丸枠はペットボトル)

かいづか文化財だよりテンプス78号



令和4年11月15日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行:各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ
櫛」をモチーフとした
デザイン。